

平成25年度魅力ある学校づくり調査研究事業実績報告書

都道府県・政令指定都市教育委員会名〔愛媛県教育委員会〕

1 事業実施期間 平成25年4月23日～平成26年3月25日

2 拠点校及び連携校

区分	学校名	学級数	児童生徒数
拠点校(中学校)	新居浜市立南中学校	15(2)	467
連携校(拠点校中学校 区内の小学校)	新居浜市立金子小学校	24(2)	681
	新居浜市立金栄小学校	13(1)	351

※学級数の()には、特別支援学級数を内数として記入

※学級数及び児童生徒数は平成25年5月1日現在で記入

3 意識調査(アンケート共通項目)

(%)

学校種	学年等	実施時期	児童生徒数(人)	ア 学校が楽しい				イ みんなで何かをやるのは楽しい				ウ 授業に主体的に取り組んでいる				エ 授業がよくわかる			
				1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
中学校	全学年計	前年①	459	51.9	38.1	6.8	3.3	61.7	29.3	7.6	1.3	37.9	45.3	13.7	3.1	29.4	52.1	14.4	4.1
		前年②	447	48.5	39.2	7.3	5.0	61.6	31.7	5.4	1.3	31.1	50.9	14.6	3.4	24.9	51.3	19.3	4.4
		本年①	449	52.3	35.6	8.0	4.0	63.3	28.5	4.9	3.3	43.4	44.1	10.5	2.0	37.2	47.0	11.8	4.0
		本年②	445	53.5	38.0	7.2	1.3	65.8	29.0	3.8	1.3	35.6	47.7	14.4	2.3	28.8	48.0	20.3	2.9
	3	中2①	142	45.8	39.4	9.2	5.6	54.2	33.1	11.3	1.4	31.0	44.4	17.6	7.0	26.8	50.0	16.9	6.3
		中2②	135	39.3	43.0	8.9	8.9	51.5	39.0	8.1	1.5	20.7	51.9	18.5	8.9	19.9	47.8	22.8	9.6
		中3①	136	35.3	44.1	11.8	8.8	50.0	37.5	5.9	6.6	36.0	41.2	17.6	5.1	20.6	50.0	18.4	11.0
		中3②	135	56.3	37.8	5.9	0.0	68.1	28.1	3.0	0.7	38.5	43.0	14.1	4.4	27.4	47.4	22.2	3.0
	2	中1①	157	54.1	39.5	5.1	1.3	65.0	29.9	5.1	0.0	48.4	42.7	7.6	1.3	38.2	51.0	9.6	1.3
		中1②	147	43.5	44.9	8.2	3.4	58.5	34.7	4.8	2.0	32.0	55.1	11.6	1.4	24.5	57.1	17.7	0.7
		中2①	156	53.2	33.3	11.5	1.9	68.6	23.7	5.1	2.6	39.7	50.0	9.0	1.3	33.3	53.2	12.8	0.6
		中2②	150	50.0	42.0	5.3	2.7	61.3	32.0	5.3	1.3	34.0	49.3	16.0	0.7	28.0	50.0	20.7	1.3
	1	小6①	168	60.1	32.1	5.4	2.4	76.8	19.0	4.2	0.0	29.2	46.4	22.6	1.8	42.9	45.2	8.3	3.6
		小6②	165	64.2	29.7	2.4	3.6	73.3	22.4	3.0	1.2	25.5	55.2	16.4	3.0	46.7	39.4	12.7	1.2
		中1①	157	66.2	30.6	1.3	1.9	69.4	25.5	3.8	1.3	53.5	40.8	5.7	0.0	55.4	38.2	5.1	1.3
		中1②	160	54.4	34.4	10.0	1.3	68.1	26.9	3.1	1.9	34.6	50.3	13.2	1.9	30.8	46.5	18.2	4.4
小学校	高学年計	前年①	352	59.7	33.0	4.3	3.1	74.7	21.0	3.7	0.6	31.3	49.1	17.6	2.0	48.1	39.6	7.7	4.6
		前年②	349	61.3	33.5	3.2	2.0	73.4	22.9	3.2	0.6	29.5	50.4	17.8	2.3	50.7	39.5	8.3	1.4
		本年①	354	62.4	31.9	4.8	0.8	76.3	20.9	2.5	0.3	48.6	41.8	8.5	1.1	59.6	35.3	4.5	0.6
		本年②	358	65.6	29.6	3.9	0.8	72.3	23.5	3.9	0.3	52.0	35.8	11.2	1.1	62.3	33.5	3.4	0.8
	6	小5①	184	59.2	33.7	3.3	3.8	72.8	22.8	3.3	1.1	33.2	51.6	13.0	2.2	53.0	34.4	7.1	5.5
		小5②	184	58.7	37.0	3.8	0.5	73.4	23.4	3.3	0.0	33.2	46.2	19.0	1.6	54.3	39.7	4.3	1.6
		小6①	181	66.9	30.9	1.7	0.6	77.9	20.4	1.7	0.0	50.8	39.2	9.4	0.6	60.2	34.8	5.0	0.0
		小6②	182	75.3	23.6	1.1	0.0	83.0	15.9	1.1	0.0	56.6	34.6	7.7	1.1	62.6	34.1	2.7	0.5
	5	小5①	173	57.8	32.9	8.1	1.2	74.6	21.4	3.5	0.6	46.2	44.5	7.5	1.7	59.0	35.8	4.0	1.2
		小5②	176	55.7	35.8	6.8	1.7	61.4	31.3	6.8	0.6	47.2	36.9	14.8	1.1	61.9	33.0	4.0	1.1

学 校 種 等	学 年 等	実 施 時 期	児 童 生 徒 数 (人)	オ 叩かれたり、けられたり、強く押されたりした				カ 暴力ではないが、いじわるをされたり、イヤな思いをさせられたりした				キ 叩いたり、けったり、強く押したりした				ク 暴力ではないが、いじわるをしたり、イヤな思いをさせたりした			
				1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
中 学 校	全 学 年 計	本年①	449	92.9	5.3	1.1	0.7	88.6	7.3	2.9	1.1	94.4	4.7	0.7	0.2	94.7	4.7	0.4	0.2
		本年②	445	88.1	8.1	2.5	1.3	86.7	9.0	2.5	1.8	89.7	7.6	2.0	0.7	87.6	8.8	2.5	1.1
	3	中3①	136	90.4	7.4	2.2	0.0	84.6	11.0	3.7	0.7	91.9	5.9	1.5	0.7	92.6	5.1	1.5	0.7
		中3②	135	86.7	9.6	0.7	3.0	83.0	11.1	3.7	2.2	88.9	8.9	0.7	1.5	88.9	6.7	3.0	1.5
	2	中2①	156	92.9	5.1	0.0	1.9	87.8	6.4	3.8	1.9	96.2	3.8	0.0	0.0	95.5	4.5	0.0	0.0
		中2②	150	90.7	5.3	3.3	0.7	87.3	10.0	2.0	0.7	88.0	10.0	1.3	0.7	84.7	12.0	2.0	1.3
	1	中1①	157	94.9	3.8	1.3	0.0	93.0	5.1	1.3	0.6	94.9	4.5	0.6	0.0	95.5	4.5	0.0	0.0
		中1②	160	86.9	9.4	3.1	0.6	89.4	6.3	1.9	2.5	91.9	4.4	3.8	0.0	89.4	7.5	2.5	0.6
小 学 校	高 学 年 計	本年①	354	89.3	8.5	1.1	1.1	83.9	11.3	3.4	1.4	91.2	6.8	1.4	0.6	91.0	7.3	0.6	1.1
		本年②	356	84.8	11.2	2.2	1.7	81.5	14.9	1.4	2.2	88.8	10.1	0.8	0.3	88.2	11.0	0.6	0.3
	6	小6①	181	94.5	5.0	0.0	0.6	90.1	6.6	2.2	1.1	92.8	6.1	0.6	0.6	92.8	5.5	1.1	0.6
		小6②	182	92.3	6.6	1.1	0.0	91.2	7.7	0.5	0.5	94.0	5.5	0.5	0.0	92.3	7.7	0.0	0.0
	5	小5①	173	83.8	12.1	2.3	1.7	77.5	16.2	4.6	1.7	89.6	7.5	2.3	0.6	89.0	9.2	0.0	1.7
		小5②	174	77.0	16.1	3.4	3.4	71.3	22.4	2.3	4.0	83.3	14.9	1.1	0.6	83.9	14.4	1.1	0.6

※小学校は、連携校の合計

※実施時期の第1回(①)は5月ごろ、第2回(②)は12月ごろに実施したもの

※「オ」～「ク」の項目は、平成25年度から実施

※本年度第2回(②)以外は、「ブロック協議会資料」に記載した数値を記入

4 課題・目標・取組

課題	自主性やコミュニケーション能力の育成を図るために、全教育活動で児童生徒の適切な話合いの場を設定することが必要である。
目標	集団の中で自分の想いを伝え、他者との関わり合いを深め、主体的に課題に取り組み、解決していくことができる子どもを育てる。
取組	① 小小・小中連携による授業改善（見通し・学び合い）を図る。 ② 「特別活動の充実」による温もりと活力のある集団づくりを推進する。

5 重点推進事項

小・中共通	① 授業改善—ねらいや見通しをもった授業の流れ ② 特別活動の充実—児童生徒の交流活動
中学校	① 授業改善—授業評価を生かした、小集団学習の取り入れ方の研究 ② 特別活動の充実—集会活動等、話合いの場を設定することによる主体性とコミュニケーション能力の育成
小学校	① 授業改善—小集団活動と「話すこと」「聞くこと」「書くこと」 ② 特別活動の充実—コミュニケーション能力育成への場面設定

6 意識調査結果の分析と考察

成 果	成果があがったと考えられる主な理由
<p>「みんなで何かをするのは楽しい」</p> <p>小学校は肯定的な回答が4回とも95%以上を示しており、中学校でも95%に迫るところまで数値が上昇してきた。</p>	<p>「小小交流」では、金子・金栄両小学校の小6児童による事前打合せや、当日全体の場で話す場の設定において、相手意識・目的意識を踏まえたコミュニケーション能力の育成に大いに役立っている。仲間づくりという点でも、違和感なく中学校に入学してくる点から、不登校の未然防止にも好影響を与えている。</p> <p>中学校では、運動会や文化祭などで学級委員会及び中3主体の自主的な運営を進める中で、生徒たちの積極的な意見交換や全員が達成感を味わえる活動を目指した。1年次の反省を生かし、中1、中2も意欲的・自発的に取り組めるよう学年・学級活動を支援したことで、中1、中2ともに昨年の同学年よりは高い数値を示したと考えられる。</p>

課 題	課題として残ったと考えられる主な理由
<p>「授業に主体的に取り組んでいる」</p> <p>12%以上の児童生徒が、まだ授業に対して主体的に取り組めていないと感じている。</p>	<p>「みんなで何かをするのは楽しい」の項目と同じように、小6と中3では「授業に主体的に取り組んでいる」の項目も数値が上昇している。</p> <p>しかし、中学校では学年による数値の差が大きく、特に中1、中2について「授業に主体的に取り組んでいる」という実感をもたせるような授業改善が不十分であった。このことは、「授業がよくわかる」の数値にも反映されていると考えられる。</p>

7 2年間の調査研究の成果と課題

〔小・中共通〕

- ① 授業改善—ねらいや見通しをもった授業の流れ
 - 小学校の授業を参考にし、小・中学校の全教職員が学習の流れを児童生徒に意識させることで、小集団学習や振り返りの時間を確保できるようになり、「授業がよくわかる」という実感をもたせることができるようになってきた。
(児童生徒が学習の流れを理解できるので、安心して学習に取り組むことができるようになったことが要因と考えられる。)
 - 有効な学習課題を提示できていない授業があるという課題が明らかになった。
(授業者による授業評価、観察者による授業評価、生徒による授業評価を分析し活用しきれていないことが要因と考えられる。)
- ② 特別活動の充実—児童生徒の交流活動
 - 小・中の児童生徒が実際に交流することで、積極的にコミュニケーションをとろうとする機運が高まってきた。
(南中と金子小・金栄小が常に継続的に交流しているという児童生徒の意識の高まりが要因と考えられる。)
 - 特別活動を中心とした集団づくりの中で、コミュニケーション能力を育成していく場面の設定について方法や回数を見直す必要がある。
(地域設定項目オ「聞く」とカ「話す」の肯定的回答の数値が、学年によって上がったり下がったりしているので、全児童生徒に対するコミュニケーション能力育成の場にはなっていないことが要因と考えられる。)

〔中学校〕

- ① 授業改善—授業評価を生かした、小集団学習の取り入れ方の研究
 - 「授業に主体的に取り組んでいる」という達成感をもたせるために、「話す・聞く」「伝え合う」活動を重視している。「授業がよくわかる」という意識に結び付けるために、小集団学習の効果的な取り入れ方を研究している。
(中学校教職員の研究意欲を喚起する上で、小学校のきめ細かな指導を見学・研修していることが意識向上の要因と考えられる。)
 - 意識調査結果によると、エ「授業がよく分かる」と答えた生徒は、中1、中2では伸び悩んでいる。
(授業改善に取り組んできているが、学習内容を十分に理解できていない生徒がいることが要因と考えられる。)
- ② 特別活動の充実—集会活動等、話し合いの場面を設定することによる主体性とコミュニケーション能力の育成
 - 計画段階から生徒を参画させることで、「伝え合う力」や「問題を解決する力」等が伸びてきた。
(発表の場や意見交換の場を増やすための学年集会や生徒集会を充実させていることが要因と考えられる。)
 - 意識調査結果によると、ク「学級の係活動や生徒会活動に積極的に参加している」と答えた生徒は、中1、中2では数値が下がってきている。
(全校集会、学年集会は活発化してきているが、学級の係活動への意欲の高まりが十分ではないことが要因と考えられる。)

〔小学校〕

- ① 授業改善—小集団活動と「話すこと」「聞くこと」「書くこと」
 - 小6で、共通項目ウとエの授業に関する肯定的な項目が増加しており、2年間の取組の成果が出ていると言える。
(一貫して継続した指導が実を結びつつあることが要因と考えられる。)
 - 相手意識・目的意識を踏まえたコミュニケーション能力を育成するための具体的な指導が不十分であるという課題が明らかになった。
(共通項目ウとエの授業に関する項目で否定的な回答をした児童生徒の割合がア、イよりも高く、地域設定項目オ「聞く」とカ「話す」の肯定的回答の割合も高くないことから、「話す」「聞く」活動への苦手意識が要因と考えられる。)
- ② 特別活動の充実—コミュニケーション能力育成への場面設定
 - 小6では、オ「聞く」、カ「話す」、キ「思いやり」の全ての項目で数値が増加しており、取組の効果は出ていると言える。
(思いやりの気持ちをもって友達に接し、集団の中で自分の意見や考えを伝えるように話すことができるよう指導を継続していることが要因と考えられる。)
 - 相手意識・目的意識を踏まえたコミュニケーション能力を育成するための児童の課題意識が十分でない。
(活動の意義や目的等を十分に理解しないまま活動している児童も見られることから、活動に向けての事前指導や導入の在り方に課題があることが要因と考えられる。)

8 取組内容

(1) 月別実施内容

※「実施状況」の欄は、次の記号で取組内容ごとに示す。

- ・・・予定どおり実施
- △・・・時期を変更して実施又は実施予定
- ◇・・・計画書にはないが新たに実施
- ×・・・実施しなかった

<平成24年度>

月	小学校における主な実施内容	実施状況	中学校における主な実施内容	実施状況
4月	第1回学校生活アンケート(全小、毎月) 異年齢集団の縦割り遊び(金子小、毎月) 縦割り花づくり(金栄小、毎月) 市教委訪問(毎月)	○ ○ ○ ○	第1回小・中連絡協議会(小・中) 第1回学校生活アンケート(毎月) 第1回連絡協議会[東京](小・中) 市教委訪問(毎月)	△ ○ ○ ○
5月	第1回研究推進部会(全小) 第1回意識調査(全小)	○ △	第1回調査研究委員会(小・中) 小学校旧担任との情報交換会 前年度指定校視察(松山市立高浜中) 第1回意識調査 中1ギャップアンケート(1学年)	○ ○ △ △ ○
6月	第2回研究推進部会(全小) 第1回人権週間(全小) 異年齢集団の交流給食(全小、毎学期)	○ ○ ○	第2回小・中連絡協議会(小・中) 三校PTA連絡協議会【小・中合同】 南中校区教育懇談会【小・中合同】	○ ○ ○
7月	第3回研究推進部会(全小) 第1回学校評価アンケート(全小) クリーン運動(金栄小、全学年)	○ ○ ○	第2回調査研究委員会(小・中) 第1回学校評価アンケート クリーン運動(3学年)	○ ○ ○
8月	第4回研究推進部会(全小)	○	河川敷清掃【小・中合同、全学年】 学校視察(長岡京市)【小・中合同】 第3回小・中連絡協議会(小・中) 小中合同教員研修会【小・中合同】	○ ○ ○ ○
9月			運動会(縦割り、全学年)	○
10月	第5回研究推進部会(全小)	○	ブロック協議会(米子市) 児童会・生徒会の交流【小・中合同】	○ △
11月	第2回人権週間(全小)	○	第4回小・中連絡協議会(小・中) 文化祭(合唱コンクール・生徒会企画)	○ ○
12月	第6回研究推進部会(全小) 第2回意識調査(全小) 第2回学校評価アンケート(全小)	○ ○ ○	第3回調査研究委員会(小・中) 第2回意識調査 第2回学校評価アンケート 県学習状況調査	○ ○ ○ ○
1月	第7回研究推進部会(全小)	○		
2月	第8回研究推進部会(全小) 第3回人権週間(全小)	○ ○	第5回小・中連絡協議会(小・中) 第4回調査研究委員会(小・中) 第2回連絡協議会[東京](小・中) 新入生説明会(授業参観、部活動参観) 研究紀要の作成	○ ○ ○ ○ ○
3月				

<平成25年度>

月	小学校における主な実施内容	実施状況	中学校における主な実施内容	実施状況
4月	第1回学校生活アンケート(全小、毎月) 異年齢集団の縦割り遊び(金子小、毎月) 縦割り花づくり(金栄小、毎月) 市教委訪問(毎月)	○ ○ ○ ○	第1回小・中連絡協議会(小・中) 第1回学校生活アンケート(毎月) 第1回連絡協議会[東京](小・中) 市教委訪問(毎月)	○ ○ ○ ○
5月	第1回研究推進部会(全小) 第1回意識調査(全小)	○ ○	小学校旧担任との情報交換会 第1回意識調査 中1ギャップアンケート(1学年) 生徒集会(学級委員会)(全学年)	○ ○ ○ ○
6月	第2回研究推進部会(全小) 第1回人権週間(全小) 異年齢集団の交流給食(全小、毎学期) 児童の交流(6年生同士)	○ ○ ○ ○	第2回小・中連絡協議会(小・中) 三校PTA連絡協議会【小・中合同】 学年集会活動(1学年) 南中校区教育懇談会【小・中合同】	○ ○ ○ ○
7月	第3回研究推進部会(全小) 第1回学校評価アンケート(全小)	○ ○	第1回調査研究委員会(小・中) 第1回学校評価アンケート クリーン運動【小・中合同】	○ ○ ○
8月	第4回研究推進部会(全小)	○	河川敷清掃【小・中合同、全学年】 第3回小・中連絡協議会(小・中) 小中合同教員研修会【小・中合同】	○ ○ ○
9月			運動会(縦割り、全学年)	○

10月	第5回研究推進部会（全小） 児童の交流（6年生同士）	○ ○	ブロック協議会（米子市）	○
11月	第2回人権週間（全小）	○	第4回小・中連絡協議会（小・中） 文化祭（合唱コンクール・生徒会企画） 成果発表会【小・中合同】	○ ○ ○
12月	第6回研究推進部会（全小） 第2回意識調査（全小） 第2回学校評価アンケート（全小）	○ ○ ○	第2回調査研究委員会（小・中） 第2回意識調査 第2回学校評価アンケート 県学習状況調査	○ ○ ○ ○
1月	第7回研究推進部会（全小）	○	中学生による説明会【小・中合同】 リーフレット作成・配布	○ △
2月	第8回研究推進部会（全小） 第3回人権週間（全小） 児童の交流（5・6年生同士） 第4回校内研修会（全小） 中1ギャップアンケート（6年）	○ ○ ○ ○ ○	第5回小・中連絡協議会（小・中） 第3回調査研究委員会（小・中） 第2回連絡協議会【東京】（小・中） 新入生説明会（授業参観、部活動参観） 研究紀要の作成	○ ○ ○ ○ ○
3月				

（2）重点推進事項の実施状況

〔小・中共通〕

① 授業改善—ねらいや見通しをもった授業の流れ

ア 学習課題の提示

児童生徒が学習のねらいを理解して授業に取り組むことができるよう、黒板に学習課題を提示するようにした。

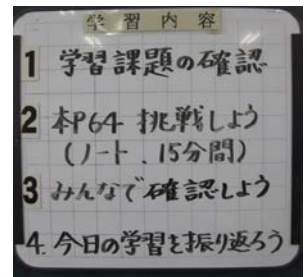


写真-1【見通しボード】

イ 見通しボード

学習の流れが分かり、見通しをもち安心して学習に取り組むことができるように、「見通しボード」（写真-1）を提示するようにした。

ウ 授業の手引き

「授業改善推進委員会」が中心となって作成した「授業の手引き」について、まず小学校で共通認識を図った。教科、教材によって授業の流れが多少変わるので、使いやすさを重視した手引きになった。また、手引きは、「つかむ」「見通す」「考える」「深める」「まとめる」「生かす」で構成し、授業の流れをより意識して実践に生かされるものとなった。（図-1）

授業の手引き			
	小1		中3
A つかむ	○子どもの興味・関心をかきたてる問題を提示します。 ・教科や図を提示して、興味解決への意欲づけをする。 ・子どもの生活情報から出題する。	・実生活や社会の出来事を探求に取り入れる。 ・	・單元の流れを整理させて、本時のめあてをつかませる。 ・進路学習（指導）につながるような興味提示をする。
B 見通す	○学習に見通しをもたせ、めあてを立てさせます。 ・これまでの学習に似たものがなかったか思い起こさせる。	・これまでの学習経験をもとに挑戦を明らかにして、解決の見通しをもたせる。 ・子ども同士の意見を交換させる。	・これまでの学習経験を参考に、主体的に興味解決の道筋を探らせる。
C 考える	○個を生かした課題追究をさせます。 ・一人一人に応じたヒントを準備する。 ・異様物を操作しながら解決させる。 ・子どものつがやさを大切にします。	・自分なりの方法で興味解決をさせる。 ・他に興味解決の方法がないか考えさせる。	・書籍やインターネット、地理人権などを学習内容に応じ、自ら選択し活用させる。
D 深める	○考えを深める機会をさせます。 ・多様な形式で発表する場をもたせる。 ・生徒の考えと自分の考えを比べ、よさを見つけてみる。	・一人一ペアグループ全体へと話し合いを展開させる。 ・間違いや失敗もまじえて、考えを積み立てさせる。	・相手の話をしっかり聞き、建設的な意見をもって、話し合いのぞませる。
E まとめる	○自分で学習をまとめさせます。 ・「できた」「分かった」という達成感を味わわせる。 ・学習したことをまとめさせる。 ・自分の得意でまとめさせる。	・文や式、図表、算式など複数の方法を使って、学習したことをまとめさせる。 ・正解や結論に至る道筋が複数ある場合は、それについてまとめさせる。	・思考の流れが分かるように、自分の得意でまとめ、発表させる。
F 生かす	○学習したことを広げさせます。 ・個に応じた補充問題、発展問題をさせる。 ・学んだことを充足感をもって家庭で話すようにさせる。 ・学んだことをまかす問題を提示したり、場を設定したりする。	・学習内容に関連した情報や知識、選択する。 ・個に応じた問題を設定する。 ・学習内容と生活場面を結びつける。	・授業で学習したことの中から興味を見つけ、それを主体的に解決するような学習をさせる。 ・学習したことの中から、自分の性を見出し、将来の進路選択につなげる。

図-1【授業の手引き】

② 特別活動の充実—児童生徒の交流活動

ア クリーン運動

これまで学校ごとに行っていたクリーン運動を、小・中合同で実施した。「校内や校区をきれいにし、自主性、協調性、奉仕の精神を養うとともに、郷土を愛し、郷土の自然を守ろうとする心を、小・中合同で育てる」という目標の下、南中1年生が出身小



写真-2【クリーン運動】

校に出向いて、金子小の6年生、金栄小の5、6年生とグループになって奉仕活動を行った。(写真-2)

イ 文化祭での交流活動

平成24年度から中学校の文化祭に小学生を招待している。小学生は、体育館での合唱コンクールや各教室での作品展示を見学した後、中学校の生徒会主催によるスタンプラリー(写真-3)に参加した。中学校の生徒会役員が中心となって準備し、当日も小学生と中学生が積極的にコミュニケーションをとることができた。児童生徒が主体の交流活動になった。



写真-3【スタンプラリー】

〔中学校〕

① 授業改善—授業評価を生かした、小集団学習の取り入れ方の研究

前年度の授業評価を授業改善に生かした、小集団学習の取り入れ方の研究を推進している。より効果的な小集団学習を目指して、公開授業等を通して意見を交換している。(写真-4)



写真-4【小集団学習】

② 特別活動の充実—集会活動等、話し合いの場面を設定することによる主体性とコミュニケーション能力の育成

中学校の「特別活動の充実」による集団づくりでは、発表の場や意見交換の場を増やすための学年集会や生徒集会を充実させている。また、生徒が主体的に参加できるように、計画段階から参画させ、「伝え合う力」や「問題を解決する力」等の育成を図っている。(写真-5)



写真-5【生徒集会】

〔小学校〕

① 授業改善—小集団活動と「話すこと」「聞くこと」「書くこと」

小学校でも授業改善に取り組み、コミュニケーション能力の更なる育成と「分かる授業」の構築を図るために、掲示を工夫し、学習課題を明示して、小集団活動を取り入れる授業を徹底している。「話すこと」「聞くこと」に加え「書くこと」も多く取り入れている。(全校)(写真-6)



写真-6【分かる授業】

② 特別活動の充実—コミュニケーション能力育成への場面設定

相手意識・目的意識を踏まえたコミュニケーション能力を育成するための場面設定が少ないという反省をもとに、小小交流に向けての事前打合せ(写真-7)や準備の時間を十分に確保した。自ら企画・運営することで、交流活動が



写真-7【事前打合せ】

より自発的なものになるように工夫した。

実際の交流活動では、児童が意欲的に参加し、自発的な交流や発言が多く見られた。両小学校共通で指導している「話すこと」、「聞くこと」のルールを土台にして、相手に応じた、目的に応じたコミュニケーション能力の育成を図っている。また、中学入学前にお互いを理解しておくねらいもある。(全校)(写真-8)



写真-8【小小交流】

9 事業担当者の活動

(1) 活動内容

実施要項の該当箇所		活動内容
4 (1) 事業全般		<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中連携年間計画の作成 ・ 研修計画作成 ・ 小中連携支援シートの活用 ・ 相互授業参観
4 (2)	小中連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中連携支援シートの情報共有化 ・ 小・中学校授業交流 ・ 中学校英語科教諭の出前授業 ・ 児童生徒の交流 ・ 小・中合同研修会
	小小連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小・小合同研修会 ・ 児童の交流
4 (3) データ収集、分析等		<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種アンケートの内容検討 ・ 各種データの分析
4 (4) 取組の評価		<ul style="list-style-type: none"> ・ 成果と課題の把握 ・ 課題への対応策の原案作成
4 (5) 資料作成、広報等		<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究紀要の取りまとめ ・ リーフレットの作成、各校ホームページ上への掲載

(2) 事業推進上の成果と課題

<成果>

- ・ 見通しをもち、「分かった」、「できた」という達成感により、自己肯定感を育む授業改善が進んでいる。
- ・ 全教職員が様々な研修を通して共通理解を図ってきたことで、「授業改善」「特別活動の充実」という二本柱を理解し、一貫した取組にすることができた。
- ・ 小小連携、小中連携による交流活動で、入学前の人間関係が深まることや小・中のギャップを埋める取組を行ってきたことによって、不登校の未然防止につながった。

<課題>

- ・ 「自分と違う意見や考え方をきちんと聞くことができる」や「集団の中で、自分の意見や考えを伝えるように話すことができる」の項目について、小6と中2がやや良好な傾向を示しているが、全体として望ましい結果が出ていない。「話し方・聞き方」のルールをより徹底させ、話し合い活動を低学年の時期から活性化させる必要がある。
- ・ 「学級の係活動や児童会・生徒会活動に積極的に参加している」の結果が思わしくない。係活動や児童会・生徒会活動において、自主性やコミュニケーション能力を育てるために、内容や評価の工夫が必要である。

- ・ 教職員の意識調査結果には、「相手校の取組が把握できていない」「育てたい力についての共通理解ができていない」という意見もまだ見られる。共通理解をより確実なものにするための場の設定に課題がある。

10 教育委員会の取組

(1) 市町村教育委員会

〔重点推進事項〕

- ・ 校内体制充実のための支援
- ・ 地域を巻き込んだ小小連携・小中連携の推進
- ・ 市全体への啓発活動

〔課題と成果〕

- 3校の担当者と定期的に取り組状況を確認しながら方向性を支援することができた。
- 本事業の取組を校長研修会等様々な会合で周知啓発することで、市内全小中学校において取り組んでいる小中連携の推進への一助となった。
- 小小・小中間における教職員間・児童生徒間の交流活動は、積極的に推進することができたが、地域を巻き込むまでには至らなかった。

(2) 都道府県教育委員会

〔重点推進事項〕

- ・ 連携を密にした市教育委員会への支援及び指導・助言
- ・ 本事業の取組及び成果等についての県内への啓発

〔課題と成果〕

- 一年目の取組を分析することで、市町教委や学校の成果や課題を踏まえ、助言することができた。
- 県内生徒指導主事研修会で啓発をすることができた。
- 県教育委員会として市教育委員会や学校との連携に十分な時間を取ることができず、調査研究の細かな軌道修正等が不十分であった。

11 「魅力ある学校づくり調査研究委員会」

(1) 構成

所 属	人数	備 考（主な職名等）
新居浜市立南中学校	4	校長、教頭、教務主任、事業担当者
新居浜市立金子小学校	4	校長、教頭、教務主任、事業担当者
新居浜市立金栄小学校	4	校長、教頭、教務主任、事業担当者
学校評議員	5	各学校PTA会長、公民館長
新居浜市教育委員会	1	指導主幹
愛媛県教育委員会 義務教育課	1	指導主事

(2) 事業推進上の成果と課題

<成果>

- ・ 小・中学校関係者以外の参加者からの意見や助言で、広い視野での小中連携を進めることができた。
- ・ 事業担当者が取組の報告や情報交換を行うことで、更なる課題を認識することができ、今後の方向性を明確に確認することができた。

<課題>

- ・ 相手校の特色を生かした取組内容やなぜその取組を行っているのかということとを互いに確認するとともに、保護者・地域にも情報発信していくことが必要である。
- ・ 今までの取組が継続できるよう、年度が変わっても全教職員が共通理解を図るための研修の在り方を検証していく必要がある。
- ・ 各小学校区単位での公民館など関係機関との連携は強いが、中学校区全体の横の連携も、できる範囲で深めていくことが課題である。

12 作成資料等

<平成24年度>

- 中間報告書
- リーフレット

<平成25年度>

- 研究紀要

13 関連URL

なし

【問い合わせ先】

所属	愛媛県教育委員会 義務教育課			電話	(089)912-2943	
職名	指導主事	氏名	正岡 洋介	よみがな	まさおかようすけ	